

1. 徳島の医療をめぐる初期研修

徳島大学病院 初期臨床研修医1年目 辻真紀子

徳島大学病院メディカルゾーンプログラム初期研修医1年目の辻真紀子です。

本プログラムは、徳島大学病院と徳島県立中央病院を中核に、県内の多様な医療機関で研修できる特色ある仕組みです。これまで、大学病院血液内科・循環器内科、県立中央病院麻酔科・救急科・小児科、県立三好病院救急科で研修しました。

大学病院血液内科では、腫瘍崩壊症候群を合併した悪性リンパ腫に対し、CHDF先行導入による寛解導入を経験しました。末梢血幹細胞移植の管理にも携わり、全身管理の難しさと奥深さを学びました。一方、県立中央病院救急科では、外因性・内因性の要因が複雑に絡み合う重症例やCPA症例の初療にあたり、限られた時間の中で最善の判断を下す責任と緊張感を実感しました。特定機能病院と高度急性期病院の双方を一体的に経験できる点は、本プログラムの大きな魅力だと感じています。

こうした日々の中で、自らの力不足を痛感する場面も少なくありません。地域枠医師として「地域の中で生きる人を診たい」と志してきましたが、実際には病態の把握に追われ、患者さんの背景や望む未来まで考える余裕がない自分に気づきました。

こんな自分ではダメだ！と思われたのが、救急科での経験です。救急現場では、患者さんやご家族が突然の意思決定を迫られる場面が多く、彼らの戸惑いや苦悩を感じました。日頃からかかりつけ医とACPが話し合われていれば、その負担は軽くできるのではないかと感じます。命を救うだけでなく、「生き方」や「最期の迎え方」を日常診療の中で語り合うことの大切さを学びました。今後は、患者さんの病態のみならず、その人の未来を見据えて寄り添える医師をめざして研鑽を重ねていきます。

今後は、鳴門病院・半田病院・海部病院・海南病院など、総合メディカルゾーンの北部・南部・西部センター病院群や地域研修を予定しています。初期研修を通じて徳島県全体の医療を理解し、地域の中で患者さんとともに歩める医師へと成長していけるよう努力します。